

野菜の需給・価格動向レポート(平成26年11月17日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	10月の価格情報			11月の価格情報			生育及び価格の11月の見通し	
	(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価額		(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価額			
		中旬	下旬		上旬			
葉茎菜	キャベツ	74.19	79	50	66.30	50	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：14,000 (105) 主産地：千葉（36）、愛知（27）、茨城（17）、東京（4） 	<ul style="list-style-type: none"> 千葉産は、現在出荷の序盤となっており病害虫の発生もなく生育は順調で今後も引き続き平年並みの出荷の見込み。愛知産は、最近の曇雨天の影響から一部のほ場で病害が発生しているが、全体的には生育は概ね順調であり、今後は平年並みの出荷の見込み。茨城産は、10月は天候に恵まれて平年よりかなり多めの出荷であったが、今後は平年並みの出荷の見込み。 愛知産、千葉産及び茨城産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在出荷が多めで平年を下回っている価格は、平年並みに近づく見込み。
		88.91	86	55	69.92	50	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：4,000t (112) 主産地：愛知（47）、茨城（29）、長野（6） 	
	ねぎ (関東は白ねぎ、 近畿は青ねぎ)	218.22	209	184	218.22	182	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込数量：6,590t (105) 主産地：青森（16）、秋田（13）、茨城（13）、埼玉（10）、新潟（8）、群馬（7）、栃木（5） 	<ul style="list-style-type: none"> 青森産は、天候に恵まれこれまで平年より多めの出荷であったが、今後は出荷終盤期となり、平年並みの出荷の見込み。秋田産は、現在は天候に恵まれ平年より多めの出荷であるが、今後は出荷終盤期に向けて平年並みの出荷の見込み。茨城産は、天候に恵まれて生育は順調で平年並みの出荷の見込み。 青森産、秋田産及び茨城産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在出荷が多めで平年を下回っている価格は、平年並みに近づく見込み。
		444.77	503	498	444.77	421	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込数量：200t (118) 主産地：奈良（15）、徳島（12）、三重（12）、香川（11）、群馬（10）、大阪（10） 	
	はくさい	54.10	53	40	36.65	35	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：13,850t (100) 主産地：茨城（83） 	<ul style="list-style-type: none"> 茨城産は、多雨の影響等で一部のほ場で病害がみられるが大きな影響はなく、引き続き平年より多めの出荷の見込み。 茨城産の出荷は平年よりやや多めと見込まれることから、価格は引き続き平年を下回って推移する見込み。
		69.44	51	44	53.29	40	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：5,300t (102) 主産地：茨城（48）、長野（17）、熊本（11）、大分（7） 	
	ほうれんそう	350.10	450	468	350.10	405	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：1,260t (100) 主産地：群馬（48）、茨城（14）、千葉（9）、埼玉（8） 	<ul style="list-style-type: none"> 群馬産は、露地物中心で生育は順調で、今後も引き続き平年より多めの出荷の見込み。千葉産は、生育は順調で今後も引き続き平年並みの出荷の見込み。埼玉産は、生育は順調で、今後も引き続き平年より多めの出荷の見込み。 群馬産、千葉産及び埼玉産が平年並み若しくは平年より多めの出荷が見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並み若しくは平年を下回って推移する見込み。
		419.76	524	534	419.76	447	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：520t (99) 主産地：岐阜（33）、福岡（32）、徳島（14）、群馬（7） 	
	レタス (結球)	158.27	82	93	136.79	94	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：7,180t (103) 主産地：茨城（60）、兵庫（10）、香川（3） 	<ul style="list-style-type: none"> 茨城産は、生育は良好で現在は平年より多めの出荷であるが、今後は出荷のピークを過ぎて平年並みの出荷の見込み。兵庫産は、天候に恵まれ生育は順調で病害虫の発生もなく大玉傾向であるが、今後は大玉傾向も落ち着き、平年並みの出荷の見込み。 茨城産及び兵庫産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在出荷が多めで平年を下回っている価格は、平年並みに近づく見込み。
		152.57	84	104	147.25	115	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：1,350t (104) 主産地：兵庫（44）、茨城（16）、徳島（15）、長崎（11）、香川（9） 	
	たまねぎ	76.15	73	72	76.15	72	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：10,620t (105) 主産地：北海道（90）、輸入（6） 	<ul style="list-style-type: none"> 北海道産は、9月末で収穫は終了し、現在は選別・調製を終えて計画的な出荷を行っており、今後も引き続き平年をやや下回る出荷の見込み。 北海道産の計画的な出荷が見込まれることから、現在平年並みの価格は、概ね平年並みに推移する見込み。
		76.15	80	75	76.15	74	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：4,000t (102) 主産地：北海道（65）、兵庫（33） 	
果菜	きゅうり	262.75	266	313	262.75	318	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：4,550t (100) 主産地：埼玉（23）、宮崎（23）、群馬（19）、千葉（11）、高知（8）、茨城（7） 	<ul style="list-style-type: none"> 埼玉産は、2月の雪害に伴う作付面積の減少もあり、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。宮崎産は、10月の台風の影響で定植が遅れたものの、今後は生育の遅れが回復し、平年並みの出荷の見込み。群馬産は、雪害で被災したハウスの再建が徐々に進み、新たに晚抑制型の出荷が増えることから、今後は平年より多めの出荷の見込み。 埼玉産の出荷が平年より少なめと見込まれるもの、宮崎産及び群馬産の出荷が平年並み若しくは平年よりやや多めと見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並みに近づく見込み。
		284.72	271	309	284.72	303	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：730t (86) 主産地：宮崎（45）、高知（20）、大阪（9）、群馬（8） 	
	トマト (大玉)	315.83	275	293	315.83	295	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：4,600t (100) 主産地：熊本（35）、千葉（17）、愛知（14）、茨城（10）、静岡（4） 	<ul style="list-style-type: none"> 熊本産は、着果に一部バラツキがあるが、生育は全体として順調であり、今後は加温による対応もあることから、平年並みの出荷の見込み。愛知産は、9月の低温の影響から回復して生育は順調なことから平年並みの出荷の見込み。千葉産は、抑制制作と越冬作とともに生育は順調で現在は平年よりやや多めの出荷であるが、今後は抑制制作の減少が見込まれるため、平年並みの出荷の見込み。 熊本産、愛知産及び千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在出荷が多めで平年を下回っている価格は、平年並みに推移する見込み。
		337.88	324	320	337.88	310	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：970t (99) 主産地：熊本（62）、岐阜（6）、愛知（6） 	
	なす	301.00	216	266	301.00	278	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：2,150t (100) 主産地：高知（61）、福岡（16）、栃木（5）、群馬（3） 	<ul style="list-style-type: none"> 高知産は、全体的に生育は順調で気温の変化による一時的な変動があるものの、今後も引き続き平年並みの出荷の見込み。福岡産は、病害虫の発生もなく生育は順調で、今後も引き続き平年並みの出荷の見込み。 高知産及び福岡産の出荷が平年並みと見込まれることから、平年を下回っている価格は、平年並みに推移する見込み。
		263.21	210	281	263.21	310	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：450t (99) 主産地：高知（35）、熊本（24）、福岡（17）、岡山（8）、徳島（7） 	
	ピーマン	263.58	271	296	344.39	337	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：1,750t (100) 主産地：茨城（54）、宮崎（24）、高知（12） 	<ul style="list-style-type: none"> 茨城産は、天候が良好で生育は順調で現在は平年並みの出荷であるが、今後は作型の切り替え時期となることもあり、平年をやや下回る出荷の見込み。宮崎産は、天候に恵まれ生育は順調で、出荷のピークを迎えた現在は、平年よりやや多めの出荷であるが、今後は最近の曇雨天の影響もあり、平年並みの出荷の見込み。 茨城産及び宮崎産の出荷が平年をやや下回る若しくは平年並みと見込まれることから、平年を下回っている価格は、平年並みに推移する見込み。
		282.16	275	277	353.61	308	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：370t (92) 主産地：宮崎（50）、高知（23）、鹿児島（10）、茨城（7） 	
根菜	だいこん	64.33	70	59	64.33	50	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：13,290t (105) 主産地：千葉（56）、神奈川（17） 	<ul style="list-style-type: none"> 千葉産は、天候に恵まれ生育は順調であり、今後も引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。神奈川産は、天候に恵まれ生育は順調で病害虫の発生もなく、今後も引き続き平年並みの出荷を見込み。 千葉産及び神奈川産の出荷が平年より多め若しくは平年並みと見込まれることから、平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。
		76.48	81	72	76.48	63	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：4,000t (100) 主産地：石川（14）、長崎（14）、和歌山（12）、鹿児島（10）、千葉（9）、徳島（8） 	
	にんじん	123.08	87	75	100.82	74	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：7,190t (105) 主産地：千葉（45）、北海道（30）、輸入（2） 	<ul style="list-style-type: none"> 千葉産は、生育は順調で、今後は出荷のピークを迎えることもあり、平年よりやや多めの出荷の見込み。北海道産は、今後は主要産地が出荷終盤に向けて減少し、平年並みの出荷の見込み。 千葉産及び北海道産の出荷が平年より多め若しくは平年並みと見込まれることから、平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。
		123.11	90	72	104.49	75	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：2,800t (113) 主産地：北海道（55）、長崎（29）、鳥取（6） 	

種類	10月の価格情報			11月の価格情報			生育及び価格の11月の見通し	
	(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価額		(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価額			
		中旬	下旬		上旬			
いも	さといも 	200.88	241	236	200.88	222	・入荷見込量：1,350t (105) ・主産地：埼玉(57)、千葉(15)、栃木(9)、輸入(2)	・埼玉産は、8月以降の肥大期の適度な降雨もあり、生育は順調で大玉傾向となっており、今後も引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。千葉産は、出荷の最盛期で台風による冠水被害も少なかったことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。
		207.20	309	270	207.20	252	・入荷見込量：311t (-) ・主産地：愛媛(50)、福井(18)、宮崎(12)、輸入(7)、熊本(6)	・埼玉産及び千葉産の出荷が平年並み若しくは平年よりやや多めと見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。
	ばれいしょ 	88.17	84	83	88.17	81	・入荷見込量：8,850 (105) ・主産地：北海道(99)	・北海道産は、生育期の適度な降雨もあって作柄が良く、今後も引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。
		88.17	78	78	88.17	76	・入荷見込量：3,700t (89) ・主産地：北海道(88)、長崎(10)	・北海道産の出荷が平年よりやや多めの出荷が見込まれることから、引き続き価格は、平年をやや下回って推移する見込み。

注: 1 平年価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均で(消費税は除く。) 保証基準額の算定の基となる価格。

2 別平均販売価額の赤字は平均価格を50%以上回るもの、背景色は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く。)。

3 単位は円／kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。

4 入荷見込量は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。() 内は前年対比。さといもの大阪は前年実績。

5 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷が多い県名。() 内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。

6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。

7 平成25年8月20日版より、平均価格と旬別平均販売価額を一部の品目につき細分化し、ねぎについては関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ、レタスについてはレタス(結球)、トマトについてはトマト(大玉)の数値を用いている。

2 野菜の需要動向

家計調査によると、9月の1人当たりの生鮮野菜の購入数量は、4,745gで前年比104%、購入金額は、2,035円で同109%となった。

また、小売物価統計によると、10月のキャベツの小売価格は、227円で過去5か年平均比144%、レタスは、372円で同83%となり、キャベツは過去5か年平均を大幅に上回り、レタスは大幅に下回った。

生鮮野菜の購入数量及び購入金額（1人当たりの購入数量と購入金額）

年	過去5か年平均		平成25年		平成26年	
	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	前年比
1月	4,252	1,595	4,243	1,669	4,379	103
2月	4,463	1,624	4,553	1,652	4,646	102
3月	4,836	1,772	4,961	1,769	4,958	100
4月	4,747	1,838	5,019	1,809	4,871	97
5月	5,103	1,902	5,257	1,861	5,146	98
6月	5,092	1,885	5,249	1,897	4,998	95
7月	4,423	1,712	4,456	1,783	4,542	102
8月	4,324	1,713	4,422	1,741	4,275	97
9月	4,768	1,803	4,577	1,863	4,745	104
10月	5,238	1,861	5,225	1,932	0	0
11月	4,993	1,671	4,852	1,806	0	0
12月	5,142	1,882	5,152	2,093	0	0

主要野菜の小売価格(東京都区部)

(単位：円／kg)

	キャベツ	レタス	
過去5か年平均	平成26年	5か年比(%)	
過去5か年平均	平成26年	5か年比(%)	
1月	198	267	135
2月	211	234	111
3月	200	200	100
4月	248	206	83
5月	169	175	104
6月	137	147	108
7月	153	171	112
8月	140	151	108
9月	149	228	153
10月	158	227	144
11月	162	0	421
12月	162	0	521

資料：総務省「小売物価統計調査報告」

注：1 過去5か年平均は、平成21～25年の平均。

2 平成26年10月の値は、10月中旬の速報値。

3 野菜の輸入動向

10月の野菜の輸入を植物防疫統計で見ると、たまねぎは、前年比70%（中国は同78%）の2万6千トン、にんじんは、同96%（中国は同97%、米国は同104%）の6千9百トン、ねぎは、同99%（中国は同99%、米国は同99%）の4千9百トンとなつた。たまねぎは前年を大幅に下回り、にんじんは前年をやや下回り、ねぎは前年並みとなつた。

野菜の輸入数量

(単位：トン、%)

区分	平成24年		平成25年		平成26年1～9月		平成26年9月
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年同期比	前年同月比	
生鮮野菜	946,931	103	854,057	90	698,505	113	58,648
加工野菜	1,909,671	106	1,854,295	97	1,372,901	100	141,848
野菜合計	2,856,601	105	2,708,352	95	2,071,406	104	200,496
うち中国産野菜合計	1,458,418	103	1,415,901	97	1,053,187	104	112,798
中国産シェア	51		52		51		56

主な野菜の輸入数量

品目	輸入先	平成25年10月(A)	平成26年10月(B)	(B)/(A)
たまねぎ	合計	37,550	26,302	70
	中国	29,289	22,958	78
	米国	8,251	3,316	40
にんじん	合計	7,198	6,924	96
	中国	7,113	6,887	97
	米国	35	36	104
ねぎ	合計	5,006	4,949	99
	中国	4,989	4,947	99

資料：農林水産省「植物防疫統計」注：平成26年10月は、速報値。

4 トピック — 本格的な需要期を迎えるはくさいの消費動向 —

はくさいは、俳句で冬の季語にも用いられるように、冬を代表する食材であり、特に鍋物や漬物の需要が伸びる10～12月の時期は年間で最も家計の購入数量が多くなる。

はくさいの月別の世帯購入量と平均気温の関係を見ると、数量は、秋から年末にかけては、家庭で漬ける漬物需要も一部加わり、気温の低下とともに大きくなり伸びる傾向がある。一方、年明けの1月以降は気温の上昇とともに大きく減少する傾向がみられる。

はくさいは、季節や気温（冷え込み）の違い等による需要変動が大きい中で、気象変動等に伴う豊凶や産地の出荷時期のズレが生じやすいこともあります。特に本年は、8月中下旬から9月にかけては作柄が良からず卸売価格が高騰したが、その後は生育・出荷も順調となり、10月以降は一転して平年を大きく下回っている。

今年の11月から来年1月は暖冬傾向と予想（気象庁3ヶ月予報）されており、今後の鍋物需要の動きが少し気になるところである。最近では、キムチ、カレー、トマト風味等のレトルトパッケージの「つゆ」や、野菜等の具材入りの鍋物セット、「一人鍋」用セットなど、鍋物用の食材のレパートリーも広がっている。

さらに、これから忘年会・新年会のシーズンに入り、お正月の家族団らん等の機会も増える中で、定番人気はやはり鍋物である。

はくさいは、カリウム、ビタミン、食物繊維が富む野菜であり、「鍋に入れるといいおいしいオススメ野菜」で第1位という調査結果もある。

主要産地の生育・出荷も順調であると見込まれており、価格も現在は